

雲仙岳の火山活動解説資料（平成 23 年 10 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 10 月の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2）

噴気活動は低調に経過し、白色の噴気が時々観測される程度（最高高度は 20m）でした。

・地震や微動の発生状況（図 2、図 3）

火山性地震の月回数は 8 回（9 月：8 回）と少ない状態で経過しました。震源は主に平成新山直下の浅いところに分布し、これまでと同様に変化はありませんでした。

火山性微動は 2006 年 11 月以降、観測されていません。

・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図 1 雲仙岳 噴気の状態（赤丸）（10 月 20 日、野岳遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 11 月分）は平成 23 年 12 月 8 日に発表する予定です。※この資料は気象庁のほか、九州大学及び長崎県を經由した九州地方整備局のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

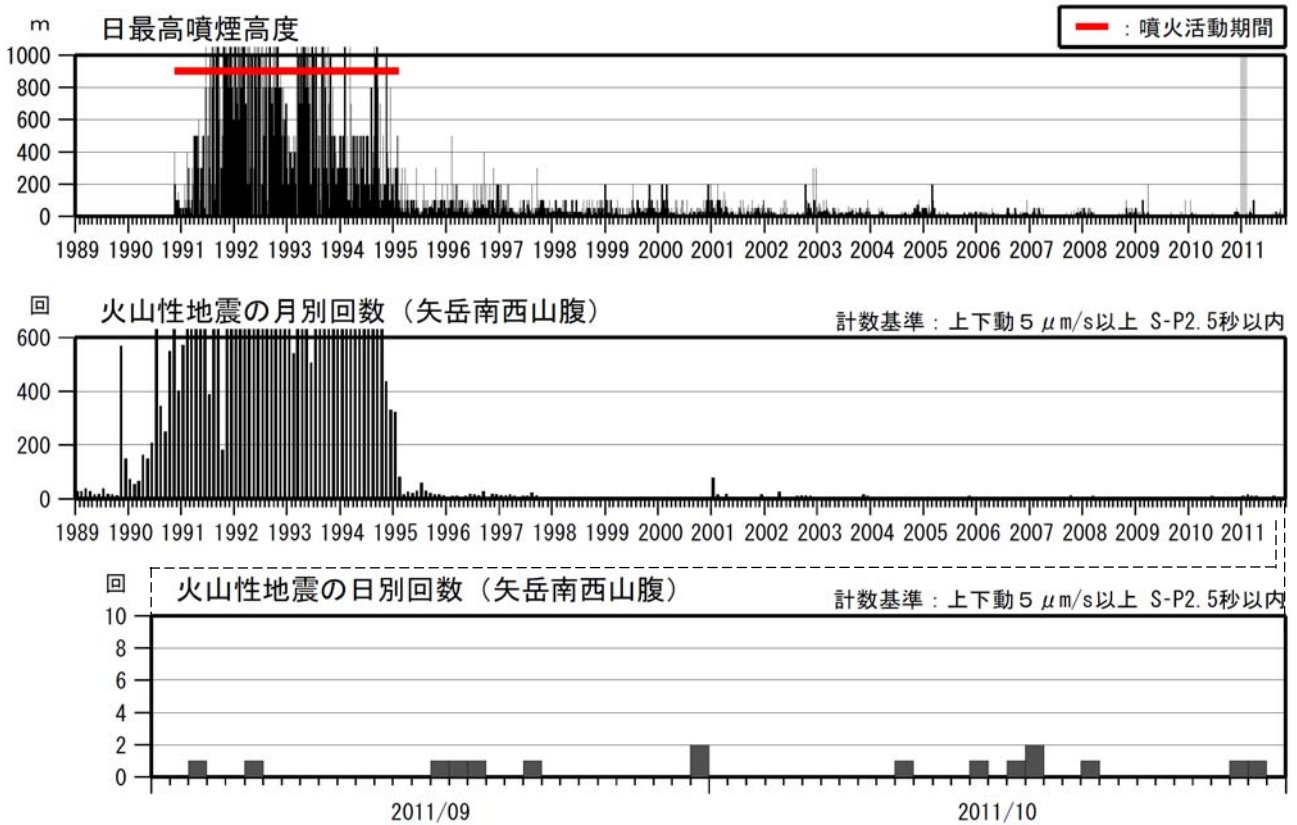


図2 雲仙岳 火山活動経過図（1989年1月～2011年10月）

噴気活動、地震活動ともに静穏な状態で経過しています。

<10月の状況>

- ・噴気活動は低調に経過しました。
- ・火山性地震は少ない状態で経過しました。

灰色部分は遠望カメラ障害のため欠測。

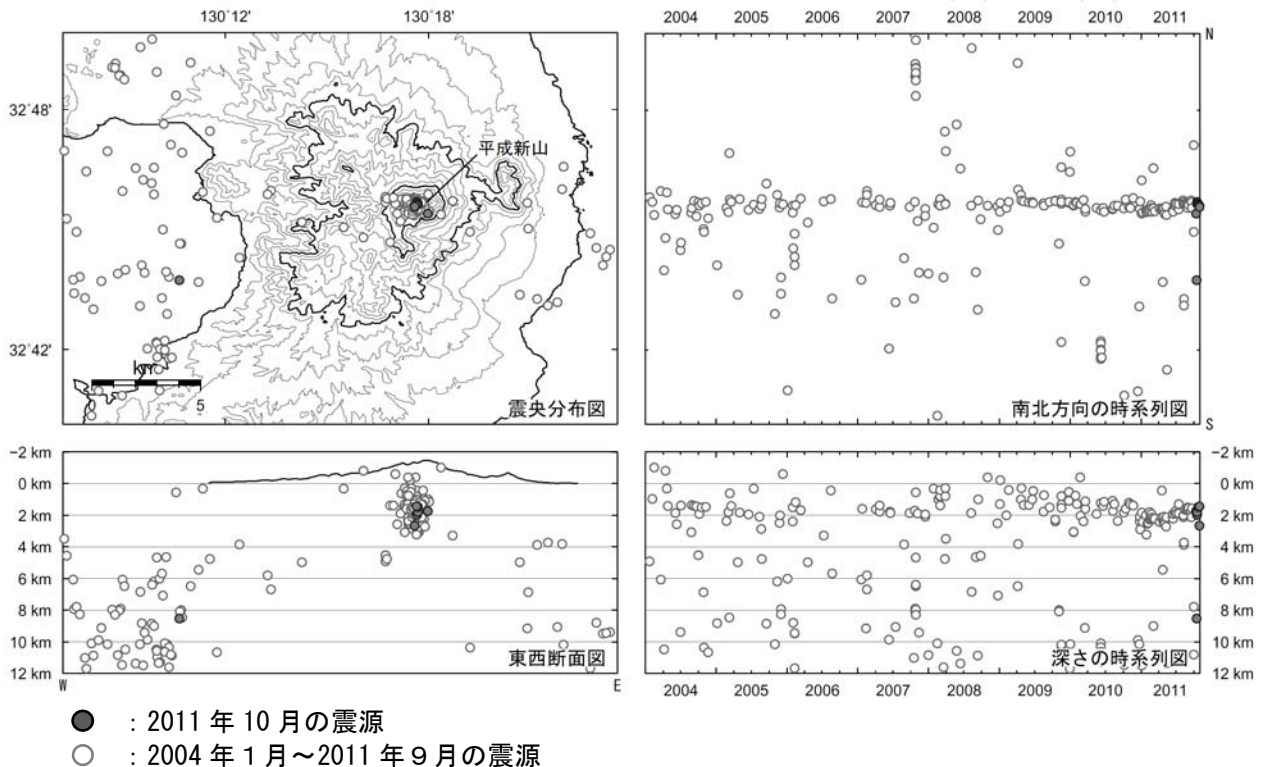


図3※ 雲仙岳 震源分布図（2004年1月～2011年10月）

<10月の状況>

火山性地震の震源は主に平成新山直下の浅いところに分布し、これまでと同様に変化はありませんでした。

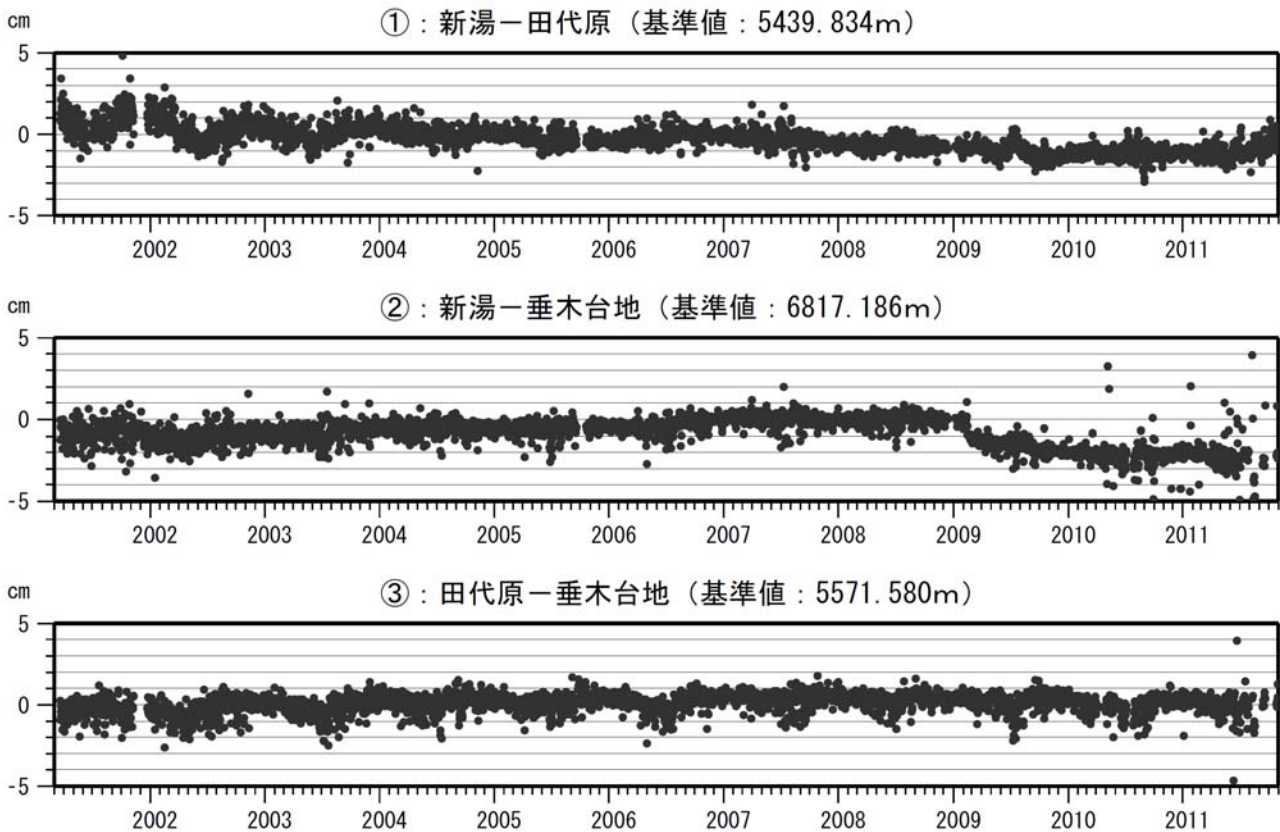


図4 雲仙岳 GPS連続観測による基線長変化（2001年3月～2011年10月）

<10月の状況>

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図5の①～③に対応しています。

①、②の基線にみられる2009年2月の変化は、雲仙岳観測所の庁舎解体に伴う変動と考えられます。

②、③の基線にみられる2011年8月以降の乱れは、垂木台地観測点の周辺環境の影響によるものと考えられます。

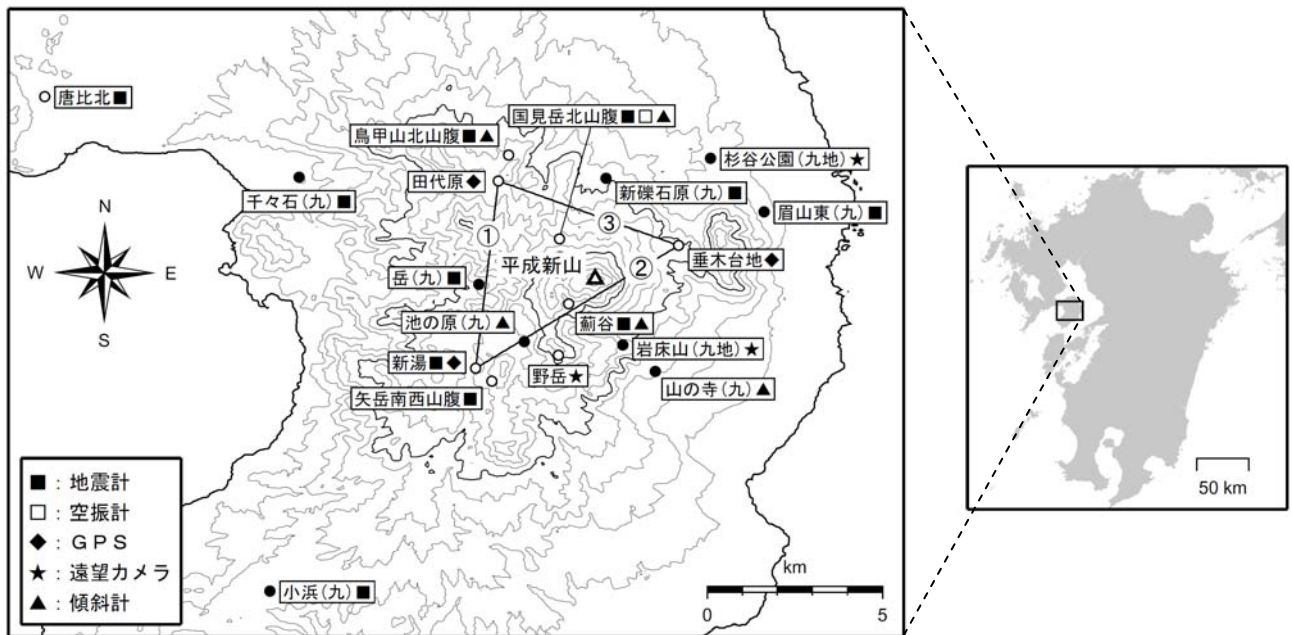


図5 雲仙岳 観測点配置図

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。

(九地)：九州地方整備局、(九)：九州大学